

おだやかで自由な空を取りもどそう

危険なオスプレイはいりません

4月5日、米空軍の特殊作戦機CV22オスプレイ5機が横田基地(東京都福生市など5市1町)に飛来しました。在日米軍が前倒し配備を突然発表した、わずか2日後のことです。沖縄県・普天間基地に所属するオスプレイが墜落や不時着などの重大事故・トラブルを各地で頻発させ、住民・市民の不安を広げています。首都東京にある横田基地へのオスプレイ配備が、都民をはじめ首都圏に住む人たちの命と安全を脅かすのは明らかです。横田基地周辺の住民はもとより、基地周辺のすべての自治体も配備に反対しています。おだやかで自由な空を取りもどすために、配備計画を撤回させましょう。

墜落をまねく重大欠陥 未解決のまま配備へ

オスプレイはたびたび墜落・事故を起こしています。2015年12月の沖縄県名護市沿岸での墜落事故の記憶も新しく、その後も重大事故があいついでいます。ハワイで墜落、乗組員2人が死亡した事故では、エンジン・フィルターに原因があるとされていますが、改良のめどはたっていない。重大な欠陥があるにもかかわらず、配備を進めようとしています。



覆いかぶさるように襲う爆音 首都圏の空をとびまわる危険大

横田基地周辺には51万人が住み、基地3キロ以内に35の学校をはじめ90以上の公共施設があります。この人口密集地の真上で訓練が繰り返され、覆いかぶさるような爆音をまき散らしています。沖縄や岩国の基地から飛び立ったオスプレイが、横田基地や神奈川・厚木基地などを利用し、埼玉や都内23区で飛行・訓練をしている様子がたびたび確認されています。すでに問題は基地周辺だけのものではありません。また、千葉県・陸上自衛隊木更津駐屯地が米軍オスプレイの整備拠点になっています。陸自が導入するオスプレイの木更津駐屯地への暫定配備も検討されており、首都圏の空をオスプレイが飛び回る危険性はさらに高まっています。



救助活動に役立たないオスプレイ 暗殺・拉致のための特殊作戦機

2016年、熊本地震の救援にオスプレイが出動しましたが、積載量が少なく機動性もなく効果が疑問視されました。ハワイでは排気熱で火災事故を起こしたり、ネパール大地震では被災者救援中に民家の屋根を吹き飛ばしたりしており、オスプレイは救助活動にまったく不向きなのです。

そもそもオスプレイは、戦争でまさきに敵地に乗り込み、暗殺や拉致することを目的にした軍用機です。侵略、先制攻撃・特殊作戦に使われるオスプレイの配備は、東京・首都圏が海外侵略の出撃地になることを意味します。

